

令和元年度 決定されたアイデア一覧

No	アイデアの名称	申請者	分類	アイデアの内容
1	子連れOK！ママのダンススクールorズンバスクール	岩永 あゆみ	市民	子どもが小さくて運動する場所がない、ダンスには興味があるけど…(未経験)、子どもと一緒にダンスがしたいetc、ママでも”楽しく”ダンスができる場所、うまく踊れなくてもママ自身が”楽しい”と思える場所を提供する。 会場にキッズスペースを作り、ダンス中でも子どもの世話ができる等、参加しやすい環境を作る。
2	ママと子どものかけこみ寺	平野 真理	市民	核家族化や、共働き世帯が増える中、不安や悩みを抱えていても頼る場所がなく孤立する保護者は多い。「簡単に作れる料理」教室を開催し、育児の不安や悩み等を語り合える居場所を作る。また、近年増加している食物アレルギーを持つ子どもの皮膚のケアについて専門医に講演してもらい、アドバイスを得る。
3	鳥さんたちの楽しい講演会	芳賀 秀樹	市民	大きなオウムや可愛いインコと一緒に講演会を行い、動物を飼うときの正しい知識や他の動物、自然との共生を伝える。
4	子ども手作りワークショップ	長野 早苗	市民	小学生～中学生の子供とその保護者を対象にワークショップを開催。 ・布ナフキン作り(思春期を迎える女子の身体と心の変化への対応やマナーなど、素敵なレディになるための講演会等も開催) ・麺棒ワークで脳の活性化、脳内ストレス発散 ・万華鏡づくり ・誰かのための子どもシェフ
5	親子で楽しむ農業体験 inわらびの里	自閉症の子育て親育ちの会にじいろサロン 田頭 綾子	市民	自閉傾向のある子どもたちによる野菜の収穫体験を実施。 自閉傾向のある子どもたちが様々な体験活動を通じて得られる達成感や自己有用感を積み上げ、自己肯定感を育むことを目的とする。 同じような悩みを持つ保護者同士が、より交流を深めたり、体験活動を機にさらに輪を広げるきっかけとなる。
6	音楽で遊ぼう！ 「きみの音わたしの音」ワークショップ&コンサート	みずのえ 重松 壮一郎	団体	親子を対象とした、楽器作りと即興セッションのワークショップ&コンサート。音を鳴らすことは、自然で自由な行為のはず。しかし、「上手に演奏しなくては…」、「失敗したら…」といった感情で”音を楽しむ”ことを忘れている。そこで「音楽で遊ぼう」を合言葉に、演奏する楽しさや、創造の喜び、一緒に奏でることのでられる「私たちは1つにつながっている」感覚を大人も子どもも一緒になって感じられることを目指す。
7	時には親子でカフェ気分	子ども食堂 宝ハウス 立石 多恵子	市民	子育て中の親は育児について悩みを持ちながらも、核家族化などにより一人で不安を抱えている現状である。同じ境遇の親が気軽に相談しあえる場を提供し、ストレス軽減の一助としたい。カフェと協力体制をとり、経済的軽減を図るとともに、親子揃って食事をとる機会をつくる。
8	身近なものであそんじゃお♪ ～えほんdeあそぼ☆夜のクリスマスおはなし会～	長崎短期大学保育学科保育専攻 澤田ゼミ 澤田 須賀子	団体	学校の教室を活用し、学校を探検しながら「クリスマス」をテーマとしたおはなし会を行う。途中、絵本の内容に合わせた「簡単クリスマスランタン」を作成。最後の部屋で軽食を食べながら交流会を行う。
9	多世代でつぐむ優しい街作りプロジェクト	デイケア きらら 中村 義幸	市民	診療所、介護施設、子育て支援が協力し、ワークショップを行う。 高齢者と子ども達のタッチポイントとして、多世代間交流をし、子どもが「老い」という自然摂理を感じ、高齢者に未来の希望を感じてもらう。 ・子ども食堂と食事作り、おやつ作り ・アナログゲーム等

No	アイデアの名称	申請者	分類	アイデアの内容
10	親子カヌー体験	佐世保海洋少年団 団長 松本文男	団体	近年は虐待問題等で親子間のあり方が問われている。親子体験型の活動を行い、楽しい時間を共有することで親子の絆を深める。 ・親子カヌー体験、木工工作等
11	ママの眠ったスキルを活かして、ママたちのリフレッシュタイム	長島 ルリ子	市民	ママたちが隠し持っているスキルを活かし、家事・育児に追われるママの心を癒す。環境部と協力したチャリティ昼食会を開催し、ごみ削減の啓発も合わせて行う。 ・ピラティス、アロママッサージ、ネイル等
12	受援者から支援者へ循環する仕組みづくりワークショップ	山崎 翠	市民	子育て支援を行っている団体が集まり、自分たちの活動の振り返りや、相手の活動内容を理解することで、課題の共有や、今後の活動発展につなげる。 受援者と直接触れ合うことで、課題やニーズを掘り起こすことで新たな支援方策を考える。
13	多様な一時預かり あり方検討会	三宅 亜貴子	市民	多様な設定状況で一時預かりを試行し、課題を見出す。当事者も含め意見交換をすることで、預かりのあり方や配慮事項等をまとめ実践の可能性を探る。 多様な預かりを実施することは支援者への負担も大きいため、支援者が支援を継続するための家族との関わり方も学ぶ。
14	地域の人から生きる力を次世代へ（多世代交流）	迎 純子	市民	1.食事作りを通じて、地域の高齢者と未就学児親子の多世代交流を図る。 2.小・中学生を対象に軽度な家事を教え、家庭でも能動的なお手伝いができるようになってもらう。 ・家事を通じての多世代交流
15	四ヶ町ハロウィン祭りを楽しもう！妖精コスチュームワークショップ	淵上 一子	市民	未就学児親子を対象とした、ハロウィンコスチュームを作成。転勤族も多く、孤独を感じながら子育てをしている親もいるため、ワークショップやイベントを通じて、交流ができたり、情報を得ることで育児ストレスの軽減を図る。 ・ハロウィンコスチューム作成